

12畝、GPSやドローン活用



大田原の遠藤さん夫妻 女性もできる農業へ

直播栽培は水田に苗を植えるのではなく、直接種をまいて育てる方法。農家の負担が大きい育苗や田植えの作業が省け、2人は「将来を考えたときに最善の選

省力化で担い手増期待

【大田原】狭原の農業遠藤和子さん(44)が今年から、夫昌宏さん(48)と米を水田で種から育てる直播栽培に本格的に取り組んでいる。作付面積は12畝でJAなすの管内では最大規模。農家の担い手不足が叫ばれる中、先進技術や機械を積極的に取り入れた「スマート農業」で省力化を図り、女性にもできる農業を実践している。(高山知昭)

米の直播栽培 本格挑戦



113

小学校高学年向け

年組

設問

【1】先進技術や機械を積極的に取り入れた農業を何といいますか。次の□に当てはまる言葉を文章中から抜き出しましょう。
・□□□□農業

【2】次の文章は、遠藤さん夫妻が農業に取り入れた先進技術について説明しています。()に当てはまる言葉を文章中から抜き出しましょう。

遠藤さん夫妻は、等間隔に稲の種をまくために(1))を使ったり、農業散布に(2))を使ったりして、農業の省力化を図っている。

【3】「直播栽培」を説明した文章は次のうちどれですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ・ア 直播栽培とは、稲を苗から育てる栽培方法である。
- ・イ 直播栽培とは、ある程度大きく育った稲を違う田に移しかえて育てる栽培方法である。
- ・ウ 直播栽培とは、直接種をまいて育てる栽培方法である。
- ・エ 直播栽培とは、人の手を加えずに自然に稲を育てる栽培方法である。

種は水に流されず、鳥の食害を防ぐため鉄でコーティングした上で、直播用の機械を使って等間隔に5、6粒ずつまく。衛星利用測位システム(GPS)も使った自動運転のため、作業時間は10畝当たり10分ほど。和子さんは「田んぼの準備さえできていれば、空いた時間に女性でも1人でできる」と笑顔で話す。遠藤さん方ではハウス野菜の栽培や畜産なども営む。多忙なため育苗は外注

していたが一念発起した。実績があるさくら市内の農家の指導を請い、昨年は試験的に40畝で挑戦。「こつは水の管理。直播への不安が全くなかった」(昌宏さん)と作付面積を一気に約30倍へ増やした。同JAによると、直播を推奨した時期もあったが、水の管理や雑草の除去などが大変なため断念する農家が多かった。JA全農とちぎによると、2020年の県内水稲作付面積のうち直

【4】次の文章のうち、記事から読み取れるものには○を、読み取れないものには×を書きましょう。

- ・ア 遠藤さん夫妻は、種を鳥に食べられないようにするために、鉄でコーティングしている。()
- ・イ 先進技術や機械を多用することは危険が大きい。()
- ・ウ 直播栽培は管理が楽なため、採用する農家が多い。()
- ・エ 直播栽培にすることで、田植えの作業が省け、省力化を図れる。()